



第11回 判例検索システム 2

新進会員活動委員会委員 重田 和寿 (59期)



1 はじめに

今月は、9月号に引き続き判例検索システムについてご紹介します。

9月号では、主に、WEB上の無料検索システムについてご紹介しましたが、我々弁護士が日常業務において判例検索を行うにあたっては、事務所や東弁・二弁合同図書館に導入されている有料システム（もちろん、合同図書館では会員は無料で利用できます）を利用することが多いと思われます。

そこで、今回は、今後合同図書館で判例検索をされる場合の、あるいは、事務所に有料の検索システムを導入される場合のご参考に、主な有料検索システムを、私の独断で比較しつつご紹介させていただきます。

もっとも、紙面には限りがありますので、ご紹介するシステムは、現在合同図書館に導入されている①Westlaw Japan ②イントラネット版D1-LAW判例体系 ③LLI/DB新・判例秘書DVDにとどめ、また、比較検討する機能も、普段使用する機会が多いと思われるキーワードによる検索機能に限らせていただきます。上記以外のシステムの導入をご検討されている場合には、何卒ご容赦下さい。

なお、以下では、実際に平成20年9月2日付でキーワード検索した結果を記載しておりますが、「検索A」とは①過失相殺②因果関係③素因の3つのキーワードを本文にすべて含む判例の検索結果、「検索B」とは①賃貸借②解除③無断転貸④信頼関係の4つのキーワードを本文にすべて含む判例の検索結果を表しております。

2 比較検討

(1) Westlaw Japan

(ア) キーワード検索の種類

いくつかのキーワードをすべて含む判例を検索する

いわゆる「AND」検索、いくつかのキーワードのいずれかを含む判例を検索するいわゆる「OR」検索に加え、あるキーワードを含むものを排除する「NOT」検索機能があり、これらを適宜組み合わせることにより、様々な検索方法が可能となります。

(イ) 検索結果

検索A：168件

(最新判例は平成20年3月28日判決)

検索B：193件

(最新判例は平成19年12月27日判決)

(ウ) 判例の表示方法

検索結果の一覧は、判決日順だけでなく審級順にも並べることができ、この点は、他のシステムにはない特徴です。

また、判決要旨の表示とともに、前身の判例マスターでは採用されていなかった判決全文表示が可能となっており、キーワードを別色で表示して強調する機能、さらに判決文中のキーワードから次のキーワードへスキップできる機能など、他のシステムでも標準的に採用されている機能が備わっています。

他のシステムと同様、判例の出典、判例評釈等についても表示されますが、特に判例タイムズの記事についてはリンクにより本文表示をすることができるという長所があります。

(エ) コメント（あくまで独断ですのご参考までに）

判決要旨は他のシステムと比べてコンパクトにまとまっており、また、判決要旨は検索結果一覧と同一画面に並べて表示されるため、検索結果一覧を見ながら、各判例の概要を確認できるという利点があります。また、費用も他のシステムと比較すると若干割安です。

ただ、今回試したキーワード検索（検索A・B）では、ヒットした判例数が最も少なかったことから、掲載判例は他のシステムと比べて限定されているようです。

(2) イントラネット版 D1-LAW 判例体系

(ア) キーワード検索の種類

「AND」「OR」「NOT」検索すべて可能です。

(イ) 検索結果

検索 A : 353 件

(最新判例は平成 19 年 1 月 28 日判決)

検索 B : 232 件

(最新判例は平成 17 年 2 月 17 日判決)

(ウ) 判決の表示方法

判決全文表示、キーワードの強調、スキップ機能、出典・判例評釈表示など、標準的な機能はすべて備わっています。特に出典・判例評釈については、他のシステムでは表示されない文献まで網羅されておりますが、一方で、リンクにより文献の本文表示をする機能はありません。

(エ) コメント

判決要旨は、他のシステムと比べて詳細であり、また、検索結果一覧と検索画面が同時に表示されるため、新たなキーワード検索に速やかに移行できるという長所があります。また、今回試したキーワード検索では、ヒット数が一番多かったため、掲載判例数は最も豊富であると思われます。

もっとも、検索結果一覧には詳細な要旨の一部しか表示されないため、他のシステムと比べると、一覧を見ながら必要な判例に当たりをつけることが若干難しいように感じました。

(3) LLI/DB 新・判例秘書 DVD

(ア) キーワード検索の種類

「AND」「OR」検索のみです。

(イ) 検索結果

検索 A : 330 件

(最新判例は平成 19 年 10 月 25 日判決)

検索 B : 216 件

(最新判例は平成 17 年 7 月 29 日判決)

(ウ) 判決の表示方法

全文表示、キーワード強調、スキップ、出典・判例評釈表示機能等はすべて備わっており、特に、判例タイムズ、ジュリスト、最高裁判例解説等の各 DVD を通じて、主要文献の本文にリンクできる機能（もちろんこれらはオプションであり、その別途費用はかかります）は、他のシステムにない長所といえます。

(エ) コメント

検索結果一覧には要旨が表示されませんが、カーソルを置いた箇所の判例の要旨の一部が画面の下に表示されますので、操作に慣れると、必要な判例に当たりをつけることが容易になると思われます。

主要文献の本文にリンクできる機能は大変魅力的ですが、その分費用（定価）は若干割高となっております。また、DVD を使用するため、定期的な更新が必要となり、その度に若干の費用が発生するという弱点もあります。

なお、判例秘書のシリーズには WEB 版の「LLI/DB 判例秘書.JP」という商品もありますが、機能・費用は基本的に DVD 版と同じです。WEB 版では、現在キーワード強調・スキップ機能がなく、若干使い勝手が悪い点がありましたが、今後改善されていくとのことでした。

3 最後に

以上、全くの独断で各システムを比較してみました。調査が不十分な点については、何卒ご容赦下さい。特に紙面及び時間の関係で、検索された判例の中身までは吟味できませんでした。

また、具体的な費用については、割引価格等を設定している会社もあるようですので、各会社にお問い合わせいただければと存じます。